

令和6年度第1回地域社会連携本部会議議事要旨

開催日時：令和6年5月22日（水）16：00～16：41

開催方法：オンライン会議（ZOOM）

出席者

田中 勝将（世田谷区スポーツ推進部 スポーツ推進課長）
高梨 潤一（横浜市にぎわいスポーツ文化局 スポーツ振興部 スポーツ振興課長）
小野 道子（公益財団法人世田谷区スポーツ振興財団 事務局管理課長）
早川 信悟（公益財団法人横浜市スポーツ協会 スポーツ事業部長）
高向 勉（横浜市青葉区 総務部 区政推進課長）
亀山 有希（社会貢献推進機構 連携推進担当）
小林 正利（社会貢献推進機構 教育開発担当）
中里 浩一（社会貢献推進機構 研究開発担当）
波多腰 克晃（スポーツプロモーション・オフィス オフィスディレクター）

欠席者 なし

事務局（スポーツプロモーション・オフィス）：湯田平、太田、堀内

開会に先立ち、事務局から構成員の紹介があり、石井隆憲機構長より挨拶がなされた。「地域社会連携本部規則第4条」に基づき、議長に波多腰オフィスディレクター（以下、OD）が選出され、波多腰議長より、「地域社会連携本部規則第5条」に基づき、過半数の出席をもって本会の成立が宣言された。

議 事

1. 報告事項

(1) 令和5年度自己点検・評価報告及び外部評価委員会報告について

事務局湯田平より、資料1「令和5年度自己点検・評価報告書」は、社会貢献推進機構が点検・評価を行い、まとめた報告書、資料2「令和5年度評価報告書(案)」は、資料1の自己点検・評価報告書をもとに、外部評価委員会が審査・評価した報告書であり、3つのテーマごとに「向上・充実のための課題」が記述されている旨、説明があった。

(2) その他

なし

2. 審議事項

(1) 令和6(2024)年度事業方針・事業計画について

事務局湯田平より、資料3「令和6(2024)年度事業方針・事業計画(案)」について、昨年度の第2回本会議にて意見をいただき、令和5年度第3回運営戦略会議にて承認された内容である旨、報告があった。

波多腰議長より、令和6(2024)年度事業方針・事業計画について、資料3のとおり提案、審議の結果、提案のとおり承認された。

(2) 令和6年度公開講座等について

事務局湯田平より、資料4「令和6年度公開講座一覧」について、キャンパスが配置されて

いる世田谷区、横浜市のスポーツ推進計画に基づき、主に地域住民を対象とした体育・スポーツの普及発展、健康の保持増進等、地域課題の解決に資する講座を学内で公募したところ、新たに開講する講座が8講座あり、毎年応募者多数により抽選となっていた「日体大スポーツフェスタ」は両キャンパス各1回開催することの説明があった。また、実施にあたっては、一般参加者が少ない講座については積極的な広報を行うこと、今後の内容の変更については、社会貢献推進機構長(学長)に一任する旨、併せて承認願う旨、説明があった。

小野委員より、「初めてのパラスポーツ」について、世田谷区スポーツ振興財団でも同様の体験会を開催しているが、無料でないと集客が難しいと思うが、現時点での応募状況について質問があり、事務局より現時点で5名の応募にとどまっておりこのままだと開講が危ぶまれる旨回答があった。

波多腰議長より、令和6年度公開講座について、資料4のとおり提案、審議の結果、提案のとおり承認された。

(3) その他

なし

3. 情報交換

波多腰議長の進行により、各委員からスポーツ振興や活動状況について情報交換がなされた。

- (田中) パラスポーツについては、以前連携して体験会を実施しており、教育委員会を通じて合同運動会の実施に向け補助員の派遣に協力いただいている。今年はパリオリンピック・パラリンピック、来年は東京でデフリンピックが開催されるため、協力して盛り上げていきたい。
- (高梨) 横浜市内の地域において、インクルーシブスポーツに力を入れており、今年度は18区すべてでポッチャやモルックの体験会を予定している。また、継続して実施するために市内で楽しめる大会を計画している。部活動の地域移行においても、スポーツ庁の予算をいただいているので、中学校と総合型クラブのマッチングを6~7月から予定している。そこで、日体大における総合型クラブの創設について、相談があったが、進捗状況はいかがか。
- (湯田平) 一般社団法人を設立し、学内調整を行っているところである。できるところから進めていきたい。
- (小野) 8年間の計画を策定し、成人女性や働き世代男性を対象とした教室を計画している。成人女性向けに、平日昼のヨガやピラティス、働き世代男性向けに筋トレやランニングの教室を予定している。部活動の地域移行においては、講師派遣や合同部活動の計画をしている。
- (早川) スポーツ推進計画に併せて、スポーツ実施率が令和2年度から下がっている。働き世代を中心にどうアプローチしていくか問題である。スポーツだけでなく、多様な企画とコラボして、「子育て世代」「インクルーシブ」「Well-Being」のテーマにより展開している。「楽しい」をキーワードに楽しむきっかけづくりを工夫したい。
- (高向) 青葉区でも人口統計から少子高齢化というデータが出てきている。若い人への魅力づくりとして、スポーツを身近に広報等協力していきたい。
- (亀山) 地域とスポーツの発展には、学生の力を借りながらスポーツの価値を高めていきたい。
- (小林) 地域移行において、指導者として学生を出す際に資質がどれくらい必要か、質の担保について引き続き検討していきたい。
- (中里) 平均寿命が青葉区も世田谷区も高いことから、なぜ長寿でいられるか体力測定も含め

て定量的に研究していきたい。

(波多腰) 地域のニーズに合わせて働き世代に対する講座も実施していきたい。

事務局湯田平より、次回会議は10月に開催を予定している旨、連絡があり、波多腰議長より閉会の挨拶があった。

以上

【配付資料】

- 資料1 令和5年度 自己点検・評価報告書
- 資料2 令和5年度 評価報告書(案)
- 資料3 令和6(2024)年度事業方針・事業計画(案)
- 資料4 令和6年度公開講座一覧

(参考資料)

1. 地域社会連携本部構成員一覧
2. 日本体育大学社会貢献推進機構構成員一覧
3. 日本体育大学社会貢献推進機構規程